

## 2019 年度産山地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、熊本県の北東部で阿蘇外輪山と久住山の間位置し、標高 480m～1,050 mと高く、山間地域で棚田が多く圃場の条件が悪い状況ではあるが、水源が有り水量も豊富なため、水稲の作付を中心に施設園芸や畜産が行なわれている。

全耕地面積のうち65%を占める水田では、主食用米作付の他ビニールハウスを利用したほうれん草、チンゲンサイ、トマト、アスパラガス、花卉等の施設園芸の産地として取組が行なわれている。

しかし、農業後継者の減少や農業従事者の高齢化により、今後の農業の担い手の不足が懸念される。また、近年イノシシ、シカ等による農産物被害が多く、対策を図る必要がある。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

水田の栽培面積単位が小さく、兼業農家が主であり、需要に応じた生産を行なうため、今後も農業者に協力を求めていく。

高齢化による耕作放棄地の増加が懸念される為、集落営農組織への取組を推進する。

#### (2) 非主食用米

##### ア WCS 用稲

畜産農家を中心に自給粗飼料の確保の観点から、専用品種の導入により、経営コストの低減を行い、作付面積の拡大を図る。

#### (3) 飼料作物

畜産農家との連携による需要に応じた生産を図り、自給粗飼料の確保に努める。また、産地交付金を活用し今後も資源循環の取組（耕畜連携）の支援を行いながら、作付面積の維持・拡大を図る。

#### (4) 高収益作物（園芸作物等）

ほうれん草、チンゲンサイ、トマト、アスパラガス、花卉の栽培に対し、産地交付金において支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図る。

また、担い手育成支援を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	160.0 ha 747.2 t	158.3 ha 737.7 t	160.0 ha 745.6 t
飼料用米	0.0	0.0	1.2
WCS用稲	12.2	12.2	13.0
飼料作物	4.0	4.0	4.0
その他地域振興作物	8.1	8.8	9.5
野菜	7.1	7.8	8.5
・ほうれん草	1.6	1.7	1.7
・チンゲンサイ	3.3	3.4	3.7
・トマト	1.2	1.6	1.7
・アスパラガス	1.0	1.1	1.4
花き・花木	1.0	1.0	1.0

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は **466kg/10a**

### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	野菜、花き・花木、 その他作物	高収益作物への助成 (基幹作)	作付面積	16.21ha	(15.80ha) 17.50ha
2	ほうれん草 チンゲンサイ トマト ミニトマト アスパラガス	担い手加算 (基幹作)	作付面積	7.6ha	(5.0ha) 7.65ha
3	飼料作物	資源循環の取組 (耕畜連携・基幹作)	作付面積	15.0ha	(9.0ha) 15.8ha
			実施率	195%	(95.0%) 201.0%
4	野菜、花き・花木	高収益作物等拡大加算 (基幹作)	作付面積拡大	15.8ha	(2021年度)16.7ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。(目標値の上段括弧書きは変更前の数字。)